

- 問1 不景気の際、日本銀行は景気を向上させるために、市中銀行が保有する国債などを買い入れることで、市場に流通する通貨量を増やす政策を行います。このような日本銀行による金融政策の名称を何といいますか。 (2018年 高知県公立入試 類似)
1. 預金準備率の引き上げ 2. 所得再分配 3. 買いオペレーション 4. 売りオペレーション
- 問2 中央銀行が国債などの売買を通じて市場の通貨量を調節する「公開市場操作」において、インフレーション（物価の継続的な上昇）の懸念があるなど景気が過熱している際にとられる一連の動きとその影響として、適切なものはどれですか。 (2017年 徳島県公立入試 類似)
1. 日本銀行が民間銀行の保有する国債を買い入れることで通貨を放出し、金利を低下させることで、消費を活性化させる。 2. 日本銀行が民間銀行に対して国債の発行を停止させ、通貨の新規発行を抑えることで、市場を沈静化させる。 3. 日本銀行が保有する国債を民間銀行に売ることで通貨を回収し、金利を上昇させることで、企業の投資を抑制する。 4. 日本銀行が民間銀行に対して直接的な増税を指示し、通貨の流通量を強制的に減らすことで、物価の安定を図る。
- 問3 景気が過熱し、物価が持続的に上昇することによって通貨の価値が相対的に下落する現象を何と呼ぶか。また、その現象が起きた際の消費者への影響について述べたものとして正しい組み合わせを選びなさい。 (2018年 神奈川県公立入試 類似)
1. インフレーションと呼ばれ、同じ金額の通貨で買える商品の量が多くなるため、実質的な貨幣の価値は上昇する 2. デフレーションと呼ばれ、同じ金額の通貨で買える商品の量が多くなるため、実質的な貨幣の価値は上昇する 3. インフレーションと呼ばれ、同じ金額の通貨で買える商品の量が少なくなるため、実質的な貨幣の価値は下落する 4. デフレーションと呼ばれ、同じ金額の通貨で買える商品の量が少なくなるため、実質的な貨幣の価値は下落する
- 問4 物価が上がり続け、景気が過熱しすぎていると判断される場合、日本銀行が行う「売りオペレーション」による影響として正しいものはどれですか。 (2020年 愛媛県公立入試 類似)
1. 日本銀行が円を売って外国通貨を買うことで、円安を誘導し、日本の輸出企業の利益を増やす。 2. 日本銀行が銀行に国債を売ることで、銀行の資金が減り、金利が上がることで企業の借り入れが抑制される。 3. 日本銀行が紙幣を大量に発行して政府に供給することで、政府の借金を肩代わりし、財政の健全化を図る。 4. 日本銀行が銀行から国債を買うことで、銀行の資金が増え、金利が下がることで個人の消費が拡大する。
- 問5 景気が後退している不況期において、日本銀行が市場の通貨量を増やして景気の回復を図るために行う操作として、最も適切なものはどれですか。 (2026年 鳥取県公立入試 類似)
1. 日本銀行が定める政策金利を引き上げ、企業が資金を借りにくくする操作 2. 保有している国債などを民間銀行に売却し、市場の資金を吸い上げる操作 3. 民間銀行が日本銀行に預けなければならない資金の割合（準備率）を高く設定する操作 4. 民間銀行が保有する国債などを買い取り、代金を支払うことで市場に資金を供給する操作
- 問6 1980年代後半から日本で発生したバブル経済の特徴について、その背景と内容を説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2025年 島根県公立入試 類似)
1. 重化学工業の発展を背景に、10年以上にわたって年平均10%前後の高い経済成長を維持した。 2. 投機目的の資金が流入したことで、土地や株式の価格が経済の実態を超えて急騰した。 3. 長引く不況により物価が継続的に下落し、企業の倒産や失業者の増加が社会問題となった。 4. 石油の供給不足により物価が激しく上昇し、戦後初めて実質経済成長率がマイナスになった。
- 問7 景気が後退している局面において、日本銀行が市場の通貨量を調整して景気の回復を図る「買いオペレーション」の仕組みとして、最も適切な説明はどれですか。 (2021年 福岡県公立入試 類似)
1. 日本銀行が保有する国債などを市中の金融機関に売却することで、市場に出回る通貨の量を増やし、金利を下げる。 2. 日本銀行が市中の金融機関から国債などを買い入れることで、市場に出回る通貨の量を増やし、金利を下げる。 3. 日本銀行が保有する国債などを市中の金融機関に売却することで、市場に出回る通貨の量を減らし、金利を上げる。 4. 日本銀行が市中の金融機関から国債などを買い入れることで、市場に出回る通貨の量を減らし、金利を上げる。
- 問8 家計や企業から「預金」として資金を集め、その資金を必要としている別の個人や企業に「貸し出し金」として提供するという、銀行が果たしている「仲立ち」の役割を何といいますか。 (2019年 福岡県公立入試 類似)
1. 支払準備金制度 2. 金融仲介機能 3. 通貨発行権 4. 直接金融
- 問9 金融機関が仲介する「間接金融」の仕組みにおいて、銀行が果たしている役割と責任について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2026年 山梨県公立入試 類似)
1. 企業が発行した株式を家計が購入する際、その取引の手続きを代行するだけの役割。 2. 政府の指示に基づいて、特定の公共事業にのみ資金を配分する役割。 3. 預金者から集めた資金を、銀行自身の判断と責任で企業などへ融資する役割。 4. 家計が直接企業に資金を貸し付ける際に、貸し倒れのリスクをすべて家計に負わせる役割。
- 問10 景気変動のモデル図において、経済活動が停滞し、景気の「谷」にあたる時期に日本銀行が実施する金融政策について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。 (2017年 奈良県公立入試 類似)
1. 日本銀行が一般の銀行に国債を売り、市場に流通する通貨量を減らす政策 2. 日本銀行が紙幣の発行を停止し、民間の経済活動を制限する政策 3. 政府が所得税や法人税の税率を引き上げ、景気の過熱を抑制する政策 4. 日本銀行が一般の銀行から国債を買い入れ、市場に流通する通貨量を増やす政策
- 問11 不景気の際に日本銀行が行う金融政策のうち、一般の銀行から国債などを買い取る「買いオペレーション」の目的と仕組みを説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2023年 兵庫県公立入試 類似)
1. 銀行が保有する資金量を増やし、貸し出し金利を下げることで、企業への融資を促す。 2. 銀行が保有する資金量を増やし、預金金利を上げることで、個人の貯蓄を促進する。 3. 銀行が保有する資金量を減らし、貸し出し金利を上げることで、過剰な消費を抑える。 4. 銀行が保有する資金量を減らし、市場の通貨流通量を制限することで、物価の上昇を抑える。
- 問12 日本銀行が「発券銀行」として日本銀行券（紙幣）の供給量を調節し、金融政策を行うことで達成しようとしている、経済上の最も重要な目的は何ですか。 (2025年 和歌山県公立入試 類似)
1. 外国との貿易を制限し、国内市場の独占を維持すること 2. 全ての国民に対して均等に現金を配分し、所得格差を是正すること 3. 政府の財政赤字を埋めるために、無制限に貨幣を増刷すること 4. 物価を安定させ、国民経済を健全に発展させること

答え合わせ・解説

問1	答え 3 買いオペレーション	日本銀行が市場の通貨量を調節する「公開市場操作」の一つです。不景気のときには、日本銀行が銀行から国債を買うことで、銀行が貸し出しに回せるお金（通貨量）を増やし、金利を下げて企業の投資や消費を促そうとします。これに対し、景気が加熱しすぎた際に行われる、国債を売って通貨量を減らす操作を「売りオペレーション」と呼びます。
問2	答え 3 日本銀行が保有する国債を民間銀行に売ること で通貨を回収し、金利を上昇させることで、 企業の投資を抑制する。	景気が過熱し物価が上がりすぎているときは、日本銀行は市場の通貨量を減らすことで金利を上げ、経済活動を落ち着かせようとします。このとき、日本銀行は保有している国債を民間銀行に売り、その代金を回収する「売りオペレーション」を行います。これにより銀行が貸し出せる資金が減り、金利が上昇するため、企業の設備投資などが抑制される効果があります。
問3	答え 3 インフレーションと呼ばれ、同じ金額の通貨 で買える商品の量が少なくなるため、実質的 な貨幣の価値は下落する	物価が上昇するということは、以前と同じ量の商品を手に入れるためにより多くの通貨を支払わなければならないことを意味します。この現象をインフレーションと呼び、結果として「お金の重み」である貨幣の価値は、物価が上がる前と比べて相対的に低くなります。
問4	答え 2 日本銀行が銀行に国債を売ること、銀行の 資金が減り、金利が上がることで企業の借り 入れが抑制される。	景気が過熱し物価が高騰（インフレ）している場合、日本銀行は「売りオペレーション」を行います。銀行に国債を売って代金を回収することで、市場に出回る通貨量を減らします。銀行の貸し出し資金が不足気味になると金利が上昇し、企業や家計はお金を借りにくくなります。これにより、過剰な投資や消費が抑えられ、物価の安定につながります。なお、為替介入や紙幣の発行による借金返済は、通常の金融政策の仕組みとは異なります。
問5	答え 4 民間銀行が保有する国債などを買い取り、代 金を支払うことで市場に資金を供給する操作	不況時には、世の中に出回るお金の量を増やして経済を活性化させる必要があります。日本銀行が民間銀行から国債などを買い取る「買いオペレーション」を行うと、その代金が民間銀行に渡り、社会全体の通貨供給量が増加します。これにより金利が低下し、企業や家計が資金を借りやすくなることで、投資や消費が刺激されます。
問6	答え 2 投機目的の資金が流入したことで、土地や株 式の価格が経済の実態を超えて急騰した。	バブル経済の最大の特徴は、企業の利益や個人の所得といった経済の実態（実体経済）を切り離して、資産価値だけが膨れ上がった点にあります。低い金利で資金を借りやすくなった銀行から、企業や個人が土地や株を転売して利益を得る「投機」のために多額の資金を投じたことが、異常な価格上昇の要因となりました。
問7	答え 2 日本銀行が市中の金融機関から国債などを買 い入れることで、市場に出回る通貨の量を増 やし、金利を下げる。	不景気の際、日本銀行は世の中のお金の循環を促すために、民間銀行が保有する国債を買い取ります。これにより、民間銀行が自由に動かせる資金（通貨供給量）が増加します。市場にお金がある状態になると、お金を借りる際の価格である「金利（利子）」が低下し、企業や個人がお金を借りやすい環境が整えられます。
問8	答え 2 金融仲介機能	銀行は、資金に余裕がある主体から預金を受け取り、資金を必要とする主体へ貸し出しを行うことで、経済活動を円滑に進める役割を担っています。このように資金の出し手と受け手の間に入って資金を融通することを、金融仲介機能と呼びます。これは、銀行などの金融機関が間に入る「間接金融」の代表的形態です。
問9	答え 3 預金者から集めた資金を、銀行自身の判断と 責任で企業などへ融資する役割。	間接金融では、銀行が預金者に対して元本の払い戻しを保証する責任を負いつつ、集めた資金をどの企業に貸し出すかを銀行自らが審査・判断します。これにより、個人の預金者は貸付先の倒産リスクを直接負うことなく、安全に資金を預けることができます。これに対し、直接金融である株式投資などは、投資家が直接その企業のリスクを負うことになります。
問10	答え 4 日本銀行が一般の銀行から国債を買い入れ、 市場に流通する通貨量を増やす政策	景気が落ち込んでいる時期（不景気）には、日本銀行は市場の通貨量を増やすことで景気の回復を図ります。具体的には、日本銀行が一般の民間銀行が保有している国債を買い上げる「買いオペレーション」を実施します。これにより、銀行が持つ資金が増え、企業や個人への貸し出しが促進されることで、経済活動の活性化を狙います。
問11	答え 1 銀行が保有する資金量を増やし、貸し出し金 利を下げることで、企業への融資を促す。	景気が停滞しているとき、日本銀行は市場に流通するお金の量を増やすために「買いオペレーション」を行います。日本銀行が民間の銀行から国債などを買い取ることで、銀行側が自由に使える資金が増えます。その結果、銀行は企業などへお金を貸し出しやすくなり、金利が低下することで経済活動を刺激する効果があります。
問12	答え 4 物価を安定させ、国民経済を健全に発展させ ること	日本銀行が「発券銀行」として通貨の量を管理する最大の目的は、お金の価値を一定に保つ「物価の安定」にあります。物価が急激に変動すると国民の生活や経済活動が混乱するため、景気の状況に応じて通貨の流通量を調整することで、経済の健全な成長を支えています。政府から独立した立場でこの役割を担うことで、短期的な政治判断に左右されない安定した金融運営が行われる仕組みになっています。